

博士論文審査及び最終試験の結果

審査委員（主査） 澤田ゆかり 印

学位申請者 スチンゴワ

論文名

MONGOLS IN NATURE, MONGOLS WITH NATURE, NATURE TO MONGOLS WITH SPECIAL PERSPECTIVE OF NATURE VALUATION

【審査結果】

2021年7月10日、澤田ゆかり（主査）、青山亨、岡田昭人、青木雅浩、藤公晴（青森大学）からなる審査委員会は、スチンゴワ氏より提出された博士学位請求論文“Mongols in Nature, Mongols with Nature, Nature to Mongols with Special Perspective of Nature Valuation”の審査および口述による最終試験（公開審査）を実施し、全員一致で博士（学術）の学位を授与するにふさわしい研究であるとの結論に達した。

【論文の構成】

Introduction

Chapter 1 Literature Review

Chapter 2 Environmental Degradation and Destruction in Inner Mongolia

Chapter 3 The Holistic Intrinsic Value

Chapter 4 Nomadic Migration and Value of Nature

Chapter 5 Shamanism in Human-Nature Relationship

Chapter 6 Land Privatization and the Instrumental Value of Nature

Chapter 7 Alienation of Human and Nature

Conclusion

【論文の概要】

各章の内容は、以下の通りである。

序章では、本論文の目的として、環境倫理学の基本理論である「人間と自然の関係」を再考することを掲げている。自然と人間を対立的に捉えるのではなく、人間と自然の一体

性を求める新しい理論の枠組みである「ホリスティック固有価値」を提唱することで、本研究は人間と自然の関係の多様性を考慮し、一つの民族の自然観において綿密な分析に耐えうる精度の高い理論構築の可能性を示している。

また序論では、環境倫理学の先行研究で主張されてきた「固有価値」「有用価値」「関係価値」の理論的境界をそれぞれ批判的に検討するとともに、内モンゴルにおける人と自然との関係の事例から、遊牧における人間と自然の関係が「ホリスティック固有価値」の統合であることを示唆している。

この命題を裏付けるために、序章では次の3つの設問が提示されている。

1) 遊牧における人間と自然の関係性は、環境倫理学の視点からどのように捉えられるのか。既存の理論だけで説明が可能なのか、あるいは別の説明モデルが必要なのか。

2) 内モンゴルにおける経済発展および近代化の進展が伝統的環境思想と対立する状況について、環境倫理学の視点からどのようなアプローチが可能なのか。

3) 遊牧が人間中心主義に傾斜しつつある現状において、自然を優先する「ホリスティック有用価値」を論じる意義はどこにあるのか。

以上の設問に答えるべく、第一章では、環境倫理学と遊牧に関する先行研究を整理・分析している。まず遊牧とシャーマニズムに関する歴史学と文化人類学の先行研究を紹介したうえで、1970年代以降の環境倫理学の諸学説について主要な主張と反論をまとめ、自然と人間の疎外を論じた最先端の研究動向に注意を促している。また本研究が依拠した資料と方法については、環境倫理学の先行研究に加えて内モンゴルの環境問題と遊牧に関する文献研究を網羅することで得た二次データを活用したこと、さらに著者自身が内モンゴルでの実生活から体得した経験的観察にも立脚したことが示されている。

第二章では、モンゴル社会・文化の概観したのち、近年の人口増加による経済活動の多様化によって、人々が伝統的な遊牧生態系から乖離し、内モンゴルの環境に負荷を与えた過程を論じている。筆者によれば、こうして生じた環境問題は人間と自然の関係における有用価値を反映しており、草原は再生なき利用に費やされたといえる。

第三章は、本論の理論的枠組の設定であり、論文全体の説明モデルが提示されている。筆者は、環境倫理学の「有用価値」「関係価値」「固有価値」について批判的考察を行い、人間と自然の関係を総体としてとらえる「ホリスティック固有価値」を新たな観点として提唱している。

第四章は、遊牧における自然と人間関係を分析している。まず移動と遊牧生態系の概念を定義したうえで、遊牧生態系における人間と家畜、野生動物、植生との関係性を伝承や慣習・タブーあるいは自然に対する表現から記述し、モンゴルの遊牧民が草原を公共財として扱ってきた歴史を振り返って、これらを「ホリスティック固有価値」を体現したものとして評価している。

続く第五章は「シャーマニズム」を介したモンゴル人と自然との関係を論じている。筆

者によれば、モンゴルのシャーマニズムは遊牧自然観の基礎となる神聖な信念を含んでおり、自然と人間の関係を宗教的に概念化したものであることが指摘されている。

第六章では「土地所有権」の私有化が遊牧状況に与えた負の影響について検討を行い、近年の内モンゴル地域における土地所有権の私有化によって遊牧経済が農業・工業に転換し、市場経済の一部に組み込まれることで、人間と自然の調和的な関係が崩れ、自然優先主義から人間中心主義に移行していく段階が詳細に解説されている。

第七章では遊牧に内在する自然中心的な関係と現代化の対立状況が検証されている。

結論では、以上の議論を踏まえて、遊牧民の自然価値を分析するためには「ホリスティック固有価値」からのアプローチが最も適していることを主張し、モンゴル以外の多様な文化、地域あるいは原住民の自然評価においても有用であることを正当化している。

【審査の概要】

本論文に関する公開審査は2021年7月10日（土）14時00分から約2時間をかけて、ZOOMによるオンラインで実施された。審査委員会の構成員は、澤田（主査）、青山、青木、岡田、および外部審査委員として環境思想を専門とされる青森大学の藤氏の5名であった。

審査では、はじめに著者から本論文の概要や主旨についての説明がなされ、その後に各審査員との間で質疑応答が行われた。

本論文は以下の点において高い評価を得た。

まずモンゴルの遊牧民と自然観という語り方から環境倫理学に伏在する問題を浮き彫りにし、今日的文脈から新しい捉え方として「ホリスティック固有価値」を提示したこと、これにより最新の研究動向に挑戦するフロンティアを明確にした点が学術的貢献として評価された。また環境倫理学の分野においてモンゴル地域に関する文献資料が極めて少ない状況を鑑みると、本論文のモンゴル遊牧民の社会状況に関する詳細な解説は、環境倫理学にとって貴重な事例研究を提供したといえる。

さらに本論文は、モンゴル人の伝統的な自然観に依拠しながら広範囲にわたる文献調査と質的データ分析によって、モンゴル地域での環境保全のあり方を世間一般に広く訴える実務者向けの材料となりえるよう設計されており、成果の社会還元を意識している点も注目に値する。

以上のように環境倫理学の先行研究で見られない理論モデルの構築の可能性を示したことは、今後における学術と実務の双方の発展に貢献するものであると言える。

他方、問題点としては以下の点があげられた。

まずモンゴル地域研究としては、先行研究に特に新たな知見を提供するもの

ではなく「一般常識」の枠にとどまる部分が散見されること、現地のシャーマニズムや土地所有の問題に関してはさらに論考を深める余地が残っており、分析結果が記述内容に十分に反映されていない部分があることが指摘された。

さらに新しい「ホリスティック固有価値」モデルの構築に至る過程が説明不足であるとの指摘もなされた。環境倫理学の既存の議論に対して新しい理論を構築・提唱するのであれば、この分野で論じられてきた既存の理論枠組みや概念と緻密な比較を行って図表化で輪郭付けしたうえで、評価システムの構想として整理すれば、「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)」における政策言説に絡めて妥当性を提示することができたはずであった。

また本論文がとりあげたモンゴルのシャーマニズムは、アメリカ先住民の自然信仰と共通性があるため、地域の特殊性を主張する分析としての妥当性に疑問が残ること、モンゴル遊牧民の自然観を踏まえた関係価値の精査は、文化の多様性や先住民の文化の保護にも通じるという観点からも重要であるが、本研究ではこれらの点が必ずしも強調されていなかったことが課題として挙げられた。

以上、審査においては先行研究の整理と分析結果の手続き、および本論の核となる理論構築の説明について問題点の指摘があったが、著者からはこれらを自覚したうえでの誠実な返答があり、今後の研究における改善や発展が期待されるものであった。全体としては今後の研究のための建設的な指摘であり、知的生産の貢献に向けた有益なコメントであった。また本学の博士学位論文の評価基準にある実用的意義の面でも、環境保護のアドボカシーに貢献しうることが認められた。

公開審査終了後、論文審査および最終試験の結果から、審査委員会は全員一致で、提出された論文が本学の博士論文としての水準を十分に満たすものであると評価し、博士（学術）の学位を授与することが適切であるとの結論に達した。